

(様式2)

「秋田大学みらい創造基金学生海外派遣支援事業」帰国報告書

記入日：2021 年 2 月 4 日

所属：国際資源学部 国際資源学科 3年

氏名：伊藤聡子

派遣先大学名(国)：国立台湾大学(台湾)

在籍身分：交換留学

派遣期間：2020年2月～2021年1月

渡航年月日：2020年2月25日

帰国年月日：2021年1月17日

○派遣先大学における授業等の履修状況

2020年3月～7月

	8:10～10:00	10:20～12:10	13:20～15:10	15:30～17:20
月	General Chinese			Film and Social Culture in Taiwan
火	Enhancing Chinese	History of Modern East Asia	日本語翻訳の授業の手伝い	
水	General Chinese			Natural Environment and Resources
木	Enhancing Chinese			Japanese Conversation
金	General Chinese			

(様式2)

2020年9月～2021年1月

	8:10～10:00	10:20～12:10	11:20～14:10	14:20～17:20	15:30～17:20
月	General Chinese	Women and Taiwanese Society		Economic History	
火	Enhancing Chinese				
水	General Chinese	(～13:10) History of Modern Korea			
木	Enhancing Chinese				Introduction to Japanese Drama and Multimedia (1)
金	General Chinese		Renewable Energy and Bioresource Recycling Technologies		
土	Introduction to Field Geology (Ⅱ)(短期授業)				

○研究・学習概要及び今後の勉強計画

私は台湾大学で東アジアの近現代史、台湾の女性やジェンダーマイノリティーに関する授業、経済活動の歴史、韓国の近現代史、台湾の動植物や資源、基礎的な地学など、台湾や歴史、資源に関する授業を受けました。自分の専門とは違う分野にも触れることができました。中でも、フェミニズムに関する授業では、人生を通して考えていきたい問いに出会い、充実した学びを得ることができました。歴史を学ぶということが今回の留学の目的だったのですが、授業や休日の博物館見学などを通して、東アジアや台湾の歴史の理解を深めることができました。韓国の近現代史の授業では、学生と討論する時間もあり、貴重な体験をすることができました。また、毎日中国語の授業にも取り組みました。台湾に行った当初は全く中国語が分からず、苦勞することもありましたが、帰国前には必要最小限の会話ができるようになりました。さらに、日本語学科の授業にも参加し、台湾大学の学生と積極的に交流しました。寮でも互いの言語を教え合う言語交換の活動に参加しました。台湾の友人と中国語で話すことも多々あり、楽しく会話しながら自分の中国語の進歩を感じることができました。

○生活面について

生活面でも特に困ることなく過ごすことができました。おいしい食べ物も安く買うことができましたし、何度も通ったお店の店員さんとは親しくなり、いつも笑顔で私を迎えてくれました。交通の面では、日本と交通ルールが違い、また車、バイクも多く、ひやっとする場面がありました。移動手段は、徒歩、自転車、バス、MRT（地下鉄）などがありましたが、留学生活に慣れてきた後半では、バスを多く使っていました。街の様子を見ながら、安く移動できるためです。台湾にはバスとMRT、どちらにも使用可能な交通カードがありとても便利でした。

○その他留学全般にわたる感想

私が留学先で歴史を学んだ理由として、将来国際的に働くとして、出身国の歴史はもちろん周辺国と歴史を知っていることは、人として関係を築く上でも重要だということがあります。今後は留学で学んだことをさらに深めて、その歴史の中の人々のためにも社会貢献できる人になっていきたいと思います。また、秋田大学で自分の留学経験を学生たちに伝え、少しでも多くの学生に自身の選択肢を広げるきっかけを与えられたらと思っています。

○渡航費補助について

最後になりましたが、秋田大学みらい創造基金に寄付してくださった皆様には感謝の気持ちを伝えたいと思います。このようなコロナ禍でも計画通り最後まで留学することができました。ありがとうございました。

(様式 2)



金鉱博物館にある坑道 (@九份)

この金鉱博物館では、金鉱山の歴史と当時金鉱山で働いていた人々やその家族の暮らしぶりを見ることができます。その歴史には、日本も深く関わっており国際資源学部にも所属する私としては大変勉強になりました。



朱銘美術館の太極拳の像

この美術館は、都心から離れたところにあるのですが、日本語を教えていた方に連れて行ってもらいました。留学生活では、このように出会った人々に助けてもらいながら、さらなる学びや出会いに恵まれるということが多々ありました。また、作品の存在感と今にも動き出しそうな作品の迫りに圧倒され、彫刻作品に関心を抱く機会となりました。